

企画展 収蔵資料紹介 東海道品川宿の商人たち					
期間	令和3年2月13日(土)～3月21日(日) 32日間				
会場	第二展示室・ロビー・小講堂				
有料観覧者	一般 833	小中 55	一般団体 0	小中団体 0	有料計 888
無料観覧者	区関係 58	区内小中 346	招待 42	高齢者 343	無料計 789
					総計 1,677

〔開催趣旨〕

慶長5年(1600)、関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、慶長6年(1601)に江戸日本橋を起点とする「五街道」(東海道、日光道中、奥州道中、中山道、甲州道中)の整備にとりかかり、品川宿が東海道一番目の宿場として設置された。品川宿は多くの旅行者が行き交うとともに、江戸市中からの行楽・遊興目的で訪れる人の増加などにより、質屋、^{つきごめ}春米屋(精米業)、魚屋、寿司屋など様々な商いが展開した。

本展では、当館が収蔵する品川宿で商いをしていた家の史料を中心に、商いの様相や商人たちの活躍について紹介した。



〔展示概要〕

- 第1章 東海道品川宿と多様な商い
- 第2章 品川宿の商人たちー村林家・相川家・宮川家ー
- 第3章 現在に続く品川宿
- コラム1 江戸時代のお金
- コラム2 看板いろいろ

〔記念イベント〕

イベント名	日時	講師	会場	参加人数
学芸員による展示 解説	①2月28日(日)	鈴木三美子 (品川歴史館学芸員)	講堂	①31名
	②3月21日(日)			②11名
時間はいずれも 15:00～15:30				延べ42名